

惜しまれて、旅立つ



今年のお正月、東京から義父母が来訪しておりました。
写真は帰る日、これから長崎空港に向かう1時間前に行った
“父娘”漢方相談です。

義父は81才。
娘（長女）宅が居心地良いようで、今回も（老体にムチ打ち）
はるばる、やってまいりました。

「おとうさん、遺言書、もう書きました？」

「いえ、まだ・・・」

「では、ここで伺います、どういう死に方をしたいですか？」

遺言もいろいろあります。

卑近な例では、貯金、財産をどうするか？ 相続の問題です。

これも遺族の間でトラブルが起きないように、生前、元気なうちからきちんと遺言を残すべきことですが、(そのスジの方に伺ったところ、スズメの涙ほどの財産での争いが一番多いそうです・・・)

義父の遺言、私がただ一つ聞きたいことは

「**どういう死に方をしたいか？**」

なぜなら、死ぬ瞬間、死んだ後、後悔してほしくないからです。

“**終わりよければ、すべて良し!**”の格言どおりで

「**苦難の多い人生だったけれど、でも最後は良かったなあ～～**」

この心境で親には旅立ってほしいものです。

そう、臨終の時こそ、『**プラス思考**』が大切!

「**xもあったけれど、もたくさんあった人生だったなあ～**」

この思考で旅立ちましょう! 天国・極楽行のキップ、保証します(笑)

「**もあったけれど、xの多い人生で、これで終わりって虚しいよ・・・**」

『**マイナス思考**』で旅立つと、キップ、もらえないかも(苦笑)

義父は、苦勞の多い人生でした。

6人きょうだいの5番目。5才の時に父親を肺結核で亡くし、以来、母子家庭。

小学3年生から新聞配達をして、家計を助けます。

そして10才の時、兄が病死。

その時、母親からひどいことを言われました・・・(ここで書けないくらいの)

大学も自前で卒業。しかし第一志望の会社には「片親」ということで落とされ

20代までは絶望の人生だったと思われます。

30で結婚、家族のために一生懸命働いて、3人の子どもを大学まで出して

やっと一息つけたのは定年後。それから太極拳や社交ダンスに興じたけれど

次第に頭と身体の老化には勝てず、気づけば傘寿を迎えていた・・・

生きていくこと、食べていくことに追われ、高度経済成長の中、ただただ

がむしゃらに働いてきた。

自分の「**生き方**」を考える時間なんて無かった人が、自分の「**死に方**」なんて

考える時間など当然ありませんでした。

義父は私の質問に、こう答えました。

「惜しまれて死んでいきたいです」

義父の望む「死に方」は、家族に惜しまれて旅立つことでした。

「では、惜しまれるためには、どう生きれば良いと思いますか？」尋ねると

「出しゃばらないこと、ガマンですね」

「違いますよ！」 私は語気を荒げました。

「おとうさん、相手に気を使っているつもりでもね、ガマンは相手には伝わらないんですよ。思ったことを言わないことは、相手を尊重しているようだけど、それは“自我”というやつ。すれ違いが生じて誤解の元ですよ」

義父は今、次女家族と同居しています。

娘夫婦や孫たちとの生活は賑やかな反面、それは自分の居場所や自由がなくなることであっても、義父なりにストレスを抱えていました。

「改めて伺いますね。惜しまれて死ぬために、どうすれば良いと思いますか？」

「・・・(沈黙)」

「それはね、家族が喜ぶことをすることですよ！」



「出しゃばらずにガマンするという受け身ではなく、相手を喜ばせようとする主体的行動です。家族には感謝とねぎらいの言葉をかける。孫たちには笑顔でお小遣いをふるまう。物欲の無い今こそ、お金をどんどん手放しましょう！そして身体が老いて弱っても、“してもらう”ではなく“してあげる人生”を意識しましょうね！心まで老化させてはいけませんよ。そうすれば、お望みどおり、みんなに惜しまれながら旅立てます」

人が死んだ後に残るものは、
どれくらい財産があったとか、どんな地位にあったのかではなく

「どれくらい相手に思いやりを持てたか？」

“良き思い出”だけを、相手の心に残して旅立ちたいものです。

太田東西ブログ ほぼ毎日ネットで更新中！

義父との対決！！ 2014.1.10

「確か、あなたは当初、2人の結婚、反対でしたよね！」



「あっ、いや、その・・・」

「なんなら、お嬢さん、今すぐ熨斗紙つけてお返ししましょうか？」



「いや、そんな・・・」

あ～～～スッキリした！！

言いたいことは、はっきり言わなきゃね！

さてと、反省したみたいだし

大好物のアイスでも食べさせようかな



こらっ、じいさん！

やさしい婿の恩を忘れて、

まだ結婚、反対かい！！

ヽ(´ `)ノ

